

2019年度 小委員会活動成果報告

(2020年 2月 11日作成)

| | | |
|------------------------------|---|---|
| 小委員会名 | 集落の包括再編モデル小委員会 | 主 査 名：佐藤栄治 就任年月：2018年4月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 農村計画委員会 | 委員長名：山崎寿一 |
| 設 置 期 間 | 2018年4月 ～ 2022年3月 | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き) | <p>集落の再編を主題とし、集落での生活を起点に、複数の集落で連動した教育、医療、介護・障害者自立支援・保育等の福祉システム、またソーシャルハウジング、公共施設等の機能集約によるニーズ密度の維持など地域マネジメントも含めた、総合的で包括的な再編モデルを検討する。人口減少の著しい、過疎地域、農山漁村集落での展開を早急に検討し、地域社会での再編手法を示す。</p> <p>初年度：各委員が持つ知見を小委員会内で共有し、地域社会で必要とされる集落の総合的な概念を整理する。各地での先進事例収集を行い、実効性の高い包括的な集落再編モデルについて、各委員が展開する研究の深化を含め検討する。</p> <p>2年度：建築学会大会時等において研究集会を企画実施する。</p> <p>3年度：集落再編に関する知見を集約し、公開シンポジウム等を企画、運営する。</p> <p>4年度：情報公開手法を検討し、Web、冊子等で情報公開を行う。</p> | |
| 委員構成 (委員名(所属)) | 委員公募の有無：有 | |
| | 主査：佐藤栄治(宇都宮大学) 幹事：北澤大佑(地域環境資源センター)、山田あすか(東京電機大学) 委員：山崎寿一(神戸大学)、齋尾直子(東京工業大学)、遊佐敏彦(奈良県立大学)、加藤栄司(地域問題研究所)、鈴木達也(香川大学)、野原康弘(自治医科大学)、三宅貴之(駒沢女子大学)、葛原希(宇都宮大学)、梅津綾(東京工業大学) | |
| 設置WG (WG名：目的) | | |
| 2019年度予算 | 150,000円 | ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajj.or.jp/nouson/s0/ |

| 項 目 | 自己評価 |
|---|---|
| 委員会開催数 | 3回(年度内計画を含む) |
| 刊行物 (シンポジウム資料等は除く) | |
| 講習会 | |
| 催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画 | |
| 大会研究集会 | 1. 研究協議会：ポスト巨大災害復興期の持続的・包括的計画パラダイム ―地域と生活目線からみた新時代・令和の計画論(集落復興小委員会と共同) 『農村計画部門研究協議会資料：同上』 参加者数 68名 |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等 | |
| 目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係) | 1. 外部資金を導入し先進事例の見学・ヒアリング調査を行う等(徳島・香川)、また他の委員会とも連携し、情報の共有化も積極的に行った。 2. 大会研協への参画等、積極的に活動を行なった。 |
| 委員会活動の問題点・課題 | 1. 若手研究者の意見も積極的に取り入れ、現状の課題/解決の方針といった議論は深まったが、社会の理想像といった巨視的な視点の導出には至っていない。学会として設置する委員会としての意義を含めた議論を展開する必要がある。 2. 現状で委員のもつ外部資金を導入しているが、さらに積極的に委員会としての活動資金を獲得する必要もある。 |